

子宮筋腫、切らすに治す

梨本大病院から超音波使用最新治療

無痛、翌日には日常生活

女性の体にメスを入れずに子宮筋腫を治せる最新治療法が、7月から山梨大医学部付属病院で始まる。超音波を患部にあてる数時間の治療で、痛みがないとされ、翌日から日常生活に復帰できる。外科手術や薬物療法よりも、体への負担が小さい治療法として期待されている。

超音波で子宮筋腫を壊死させる「集束超音波治療(FUS)」と呼ばれる。米国で数年前に開発され、一昨年に国の薬事承認が下りたばかり。付属病院によると、全国で11台しかないというFUSの最新治療機器を導入した。

子宮筋腫は子宮にできる良性腫瘍。自覚症状がない場合も多く、30代以上の女性は4人に1人できることいわれる。大きさや部位に

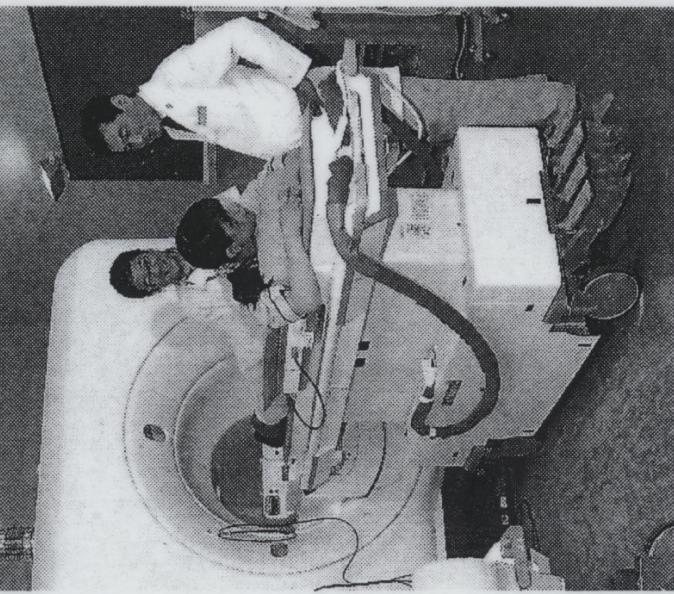
よっては、月経過多による貧血や、切迫早産を引き起こす危険性もある。これまでの外科手術による摘出か薬物療法では、体への負担が大きく、傷痕が残りやすいとされ、治療をためらう患者が多くなった。FUSについて、産婦人科の平田修司教授は「体に傷がついてここで手術をためらっていた患者さんにこうして、かなりいい選択肢になりうる」と期待を寄せた。放射線科の市川智章准教授によると、集積した超音波で細胞を壊死させる仕組みはがんにも応用できるといきたい」と話す。

しかし、保険が適用されないため、通常は自己負担が60万円~70万円近くになる。導入当初は多くの症例が必要なことから、治療費を大学側が負担することも検討して

いる。7月から治療を受け付けるが、患者が殺到するのを防ぐため、他の病院の産婦人科や開業医から紹介してもらうことを、手続きの前提条件としている。

(板垣麻衣子)

2012年(平成24年)6月25日 朝日新聞掲載



導入された最新治療機器=中央市下河東